

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3473100562		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 森蔵の家		
所在地 (電話番号)	〒737-1377 広島県呉市倉橋町11777番地 (電話)0823-54-2150		
評価機関名	(社)広島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒734-0007 広島市南区皆実町1-6-29		
訪問調査日	平成19年12月10日	評価確定日	平成20年1月15日

【情報提供票より】(19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6, 2

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1000円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	名		要介護4	1名	
要介護5	名		要支援2	1名	
年齢	平均 84,1 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	室尾 林医院 四道歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム森蔵の家は、海沿いの道から一步入った昔懐かしい民家が建ち並ぶそんな一角に位置し、大正末期に有床診療所として建てられた風格ある建物を改築し、広い敷地の中に日本庭園を有した地域の中では要的な立場にあるホームである。また、運営母体は近隣に保健施設・小規模多機能ホーム・宅老所等を有し他地域においても数箇所グループホームを運営するなど介護事業に対しては深い理解と想いがあり「人として生きることの支援」を管理者・職員は目標とし、日々努力されている。このことにより、利用者の方は安心されており、我が家で生活をされているような雰囲気を感じ得られた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題は特にないが、管理者・職員共々介護理念を共有し、日々ケアの向上に努め、地元で認められたホームとして更なるサービスの質の向上に取り組む努力がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・職員共に理念でもある人権を尊重しノーマライゼーションの確立の基介護サービスに努め、更なる地域交流を深め明るい共同生活がおくれるように支援されている。また、職員の若返りを図り活気ある環境のもと信頼される介護サービスを目指した取り組みがされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は定期的に行なわれている。会議はホームの報告に留まらず地域からの評価・要望・助言等も取り入れこれらを運営に活かされている。今後に限らず地域性ではあるが更に地域と密着した取り組みを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームの運営については、会議録や機関紙“森蔵通信”を作成し、毎月家族に報告されている。また、家族からの様々な相談事や介護のあり方など問題点があれば、その都度管理者・職員間でしっかり討議し運営の健全化に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的には散歩や買い物を通じて気軽に挨拶など行っており、すぐ近くの銭湯に出掛けるなど町内との係りは様々な場面で何うことが出来る。秋には、他地域から多くの見物人が来る“室尾だんじり祭り”にホームの職員と系列ホーム職員も共に参加し、家族や近隣住民との係りを大切に暮らした暮らしが確保されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護理念の一つに掲げてある「地域交流を深め、明るい共同生活」が出来る支援を、管理者、職員は日々介護に生かす努力がされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が、元気で笑顔のある暮らしが営めるように支援し、利用者本位の介護サービスを基本方針としながら管理者・職員は取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の散歩や買い物を通して多くの顔馴染みの方を作っており、また、地域の清掃活動等に参加するなど出来ることから少しずつではあるが、交流の輪を広げるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を管理者、職員間でしっかり話し合い、また共有されており、質の高いサービスを提供できるよう努力がされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に行われており地域にとけ込んだホームとしての位置付けが確保されている。また、会議の内容は家族に報告し、サービスの向上に生かすように取り組んでいる。	○	今後は幅広い立場での地域住民に参加を呼びかける等、更なる取り組みの工夫に期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通じて相談するなど機会を多く持ち、サービスの向上に取り組んでいる。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の個々の状況は、毎月の手紙や”森蔵通信”などを通じて報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・苦情等を聞く体制は設けられており、不満・意見等はミーティングで話し合い運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響は余りなく、また代わる場合は利用者の障害行動にならないよう引継ぎ期間を十分に取り利用者に支障がないよう配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入研修は、1週間グループ内の医院・保健施設などに出掛けて研修を受ける仕組みがある。また、現任職員においても希望に沿って内・外部研修を受ける仕組みが確保されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にある「いこいの里」との交流があり、グループ内でも情報交換や勉強会など行いサービスの質を向上させる取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族と相談しながら、場の雰囲気に馴染めるよう職員がサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事は、職員全員と利用者と一緒に作った料理を食べている。また、生活の技・文化等教えて貰う場面を大切にしながら共に過ごし支え合える関係が出来ている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、利用者の希望や意向を聞き、これまでの一人ひとりのライフスタイルを大切に努力がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホームでは、日常のケアについて本人、家族からの意見を聞きミーティングを行い職員間で情報を共有し、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランごと変化に応じて介護計画を見直し、現状に沿った計画を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	ご家族のその時々要望に応じて老健施設や病院へ の移転が出来るなど柔軟な支援と体制づくりが取り組 まれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医・提携医への受診や訪問看護ステー ションとも連携しており、利用者・家族の希望に応じて 適切に医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	家族の意向に沿って話し合いがされ、早い段階で方 針を明確にする体制が取られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	それぞれの方の尊厳を守り、ホーム内で慎重に扱 うよう配慮され個人情報が外部に漏れないよう記録簿な どの収納・管理も確保されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、一人ひとりの心に寄り添 った生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と利用者が語り合い楽しい雰囲気の中で摂食しており、食後は職員と利用者が互いに助け合いながら後片付けを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や意向に沿って柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な家事作業や趣味など一人ひとりの楽しみ事や能力に応じた支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や買い物に出掛け、時々広場でお弁当を食べたり、銭湯に行くなど外出支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかける事の弊害をよく理解している。当ホームでは鍵をかけない事が方針であり、自由に訪問出来る体制が出来ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は消防大会などに参加し、災害に対して対応が出来るよう努めており、また、地元消防団にも協力が得られるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者の嗜好・食事・水分は把握されており、栄養のバランスや体調に合わせて栄養士に相談しながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は季節感を出すため飾りを替えたり、常に居心地よく過ごせるためにはと家庭的な雰囲気づくりが成されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して馴染みの品を配置するなどして、本人が居心地よく過ごせる工夫が伺える。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 森蔵の家

評価年月日 19 年 11 月 10 日 記入年月日 19 年 11 月 10 日

記入者 職 管理者 氏名 中田 久美

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	介護理念の一つとして掲げ、理念に沿って日々取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、申し送りで理念を読み上げ意識の向上に努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関・居間・台所等に明示し、入居者及び家族の方々に説明する等、対応している。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩で近所の方々に挨拶したり、地域清掃時に気軽に挨拶している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議には地域代表者、地域包括、家族の方々に参加していただいている。地域行事の参加などとして交流をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	自治会などから情報を得て地域の活動や行事などにも参加している。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年1回の外部評価を活かし、全職員で日々質の高いサービスを提供できるよう努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族や地域の方から指摘された意見を記録し、それを実現出来る用、ミーティングなどを行い話し合っている。		家族、地域住民等、幅広い立場の方に参加していただけるよう、取組んでいきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議を通じ、相談したり助言をして頂いたりサービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修等に参加し、成年後見制度の理解に努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等に参加したりミーティングを行い、理解を深め、誰もが危険を早く察知できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、契約内容を十分に説明し、不安や疑問がないか訊ねて、納得した上で手続きをし、理解を得ている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティングで話し合い、その都度、解決に努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、手紙で日々の暮らしや様子を伝えている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議などで意見を聞いて、記録し、その後ミーティングで話し合い解決に努めている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の日報を通して意見や提案、要望ができる状態にしている。それに応じてミーティングを行っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ローテーションで勤務調整を行っており、実状に応じて時間帯を変更している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>なるべく異動がないようにしているが、職員が代わる場合は、引継ぎの時間を十分に取り、利用者へは支障をきたさないよう配慮している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内の医院・老人保健施設での研修を受けている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループ内でのミーティング、勉強会その他、研修会などで情報交換を行っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>出来るだけ直接聞き入れるようにしているが、言いにくい事はメールなどで対応し、スーパーバイザー等への相談も行っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>個々の能力、得意分野に応じて活躍の場、環境作りをしたり、仕事への喜びや、やりがいにつながるような言葉がけや対応をするように努めています。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>電話相談などに、環境面や医療面など、さまざまな方面からの相談を受けその方に合う条件を提供している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人や家族との思いの違いを含め、その方に合う条件を提供している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望には出来る限り対応できるよう、スタッフ同士で相談し必要としている支援を実現できるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじむように家族等と相談しながら工夫している。	利用される前に、事前に家族の方に、本人の生活歴、性格など簡単に聞き取りをしている。入居の際には、場の雰囲気になじめるように職員がさりげなくサポートしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で共に生活している。生活の技や文化について教えて頂く場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	出来る限り家族の方も一緒に行事に参加していただき、職員と一緒に本人を支える形を作っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族と本人との時間を作るため、面会時は各居室でくつろいで頂けるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人に関わる全ての人を巻き込み、本人の支援に努めている。今までと変わらない生活環境を出来るだけ実現している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>利用者同士の間に職員が入り、支えあうという関係作りに努めている。また、孤立してしまう状況にあれば、気の合う入居者同士で過ごせるよう配慮している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>契約終了後も入居者や家族の相談等を受けている。また、本人の転居先に職員が訪問するなどして、関係を断ち切らないよう働きかけている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>本人の希望・意向を聞き、それに対し職員、家族が話し合い、本人のためのライフスタイルを検討している。介護計画等も活用している。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>それまでの生活歴を、本人・家族から聞き取りをしている。今までと変わらないよう生活が出来様支援している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>基本情報、ケアサービス計画書をいつでも見やすい所に置いておき、サービス担当者はもちろん、職員全員把握できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ミーティングで意見やアイデアを出して本人がよりよく暮らすための課題を介護計画に反映している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人や家族の要望、変化に応じて、必要な見直しを行っている。		今後センター方式を何部か取り入れていきたい。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りにて、入居者の変化を確認し、都度記録している。申し送りノートや個人カルテを活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員全員が把握出来る様に徹底している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者に安心して暮らして頂くために、その状態に応じて老健や病院への転居が出来るなどの対応をしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通じて交流を図り、民生委員、地元消防団など協力をして頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人や家族の意向を尊重し、本人の体調に応じてその都度必要に応じて対応できる体制をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議等を通して地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望する医療機関で受診している。また、医師の回診、24時間受け入れ病院、訪問看護ステーションとも連携しており、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	受診支援のある医療機関では親切に受診している。また、主治医である、当理事長林Drに相談することで、指示・助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと契約しており、日常の健康面や医療面について他の職員と情報を共有し、対応している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合は、細めに連絡を取っており、本人のストレスや負担を軽減する為に家族や医療関係者と相談しながら、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を本人・家族・スタッフで話し合い、支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居と同時に、重度化した場合や終末期の話を進め、早い段階で明確にできるようにしている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>提携病院や協力医療機関とともに充実もしており、情報交換もされている為、体制は確保している。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むダメージを最小限に留める為に、転居時には前もって、その方の情報を伝え受け入れ体制を整えることによって、本人が安心して転居できるように、関係者が協働して支援している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、入居者に対して敬意を払い接するよう心掛けており、個人情報外部に漏れないよう徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望を尊重し、支援を行っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>声かけは行っているが、一人ひとりのペースを大切にしながら入浴や食事の支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	職員の好みを押し付けるのではなく、その方に合った服装と一緒に選んでいる。また、行きつけの理・美容があれば、家族と一緒にいる。その他、グループ内に理美容有資格者がいるので日程を決めて支援してもらっている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	空いている席で、利用者と共に食事を楽しむようさりげなくサポートしている。食後は、後片付けを入居者と一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物に出かけ、個々の入所者がほしい物が買えるよう、他の利用者の迷惑にならないように配慮しながら支援している。または、ご家族の方にも買って来てもらっている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人で出来るところまでは見守りを行い、出来ない部分はさりげなくカバーしている。一人ひとりに合わせた対応を行うようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員のペースではなく、一人ひとりの希望に合わせて入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	薬に頼られていた入居者も、一日の運動を増やす等をし、極力服用なしで眠れるよう工夫している。居間のイスや個室で休まれたり、一人ひとりの特徴をつかみ安心して休息できるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	園芸、掃除、音楽、食器洗いなど、個々の力量や好みに合わせた支援を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力量に応じて判断しながら対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に沿って、買い物や散歩に出かけることが出来るよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	利用者が行きたい所を本人や家族から把握しており、基本的には家族が同行で行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞い、年賀状等を書いていただくよう支援しており、電話の利用があれば必要によっては介助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時は入居者がお茶を出したり、家庭的な雰囲気を大切にしている。また、いつでも宿泊できるようになっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングや勉強会等で、話し合うなど職員の認識は対応している。もちろん職員一同、身体拘束のないケアを心がけている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけず、近所の方や入居者の知人・家族の方等が自由に訪問できる体制を整えている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は、定時の見回りや、日中は常にフロア全体を見回す事のできる場所に位置し、さり気なく観察出来るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物などは利用者の手の届かない場所に保管し、薬品は別に保管場所を設けている。状況によっては、管理方法の確認、見直しを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハットや転倒記録等を活用しながら、再発防止策を都度話し合っている。また、緊急事態の対策マニュアルにより、全ての職員は把握している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	等理事長、林 Dr の指示・指導により職員も対応ができるよう日々学習している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>職員は消防大会などに参加し、災害に対してしっかりと意識をもち、いざというときに適切な判断と対応が出来るよう努めています。また、地元消防団にも協力が得られるよう働きかけています。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>入居された時点で、本人に起こりうるリスクについて家族等で話し合い、事前に対応策を考えたり、一人ひとりに予測されるリスクを率直に話し合う等して、リスクの軽減に努めている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日バイタルチェックを行っている。全職員、異常の早期発見に細心の注意を払っている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の知識は、ミーティング・勉強会等で看護師を交えて行っている。服薬は医師の指示通りに支援している。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>その都度、運動・散歩をしたり、食事に気を配るなどで対処している。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>うがいの支援や、毎日の歯磨き、入歯洗浄などの口腔内の清潔は日常的に行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりに合わせ、また、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすくきざんだり、栄養士に相談し、対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	当理事長林 Dr 作成のマニュアルを基に勉強会を行っており、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	清潔保持を怠らない。場合によっては、アルコール殺菌する等工夫している。手洗いにも気をつけている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに、草花を季節ごとに植え替えたり、メダカなどを飼育したりして、訪問しやすい環境を作る様心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明などは、落ち着いた雰囲気が出る色を選択し、季節感を表すため、飾りを変えたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、フロアで他の利用者と自由に過ごせる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れた家具や、入居時に使いやすい物を購入したりと、入居者本人や家族と相談しながら安心できる場所作りを行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、全ての窓を開け、換気を行っている。室内は、季節や利用者の体調に応じて適切に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手すり等を設置しており、安全かつ快適に過ごせるよう工夫している。出来るだけ、一人ひとりが自立した生活を送れるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には、目線の高さや見えやすい大きさの文字の名前を貼り、迷わないよう工夫している。また、トイレや浴室なども分かりやすく明記している。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダからは、庭の景色を楽しまれたり、一緒に洗濯物を干したりして活用している。また、外周リには、メダカを飼育しているので、一緒に餌をあげたり、草むしりをしたりなどしている。		